



病院長 村上 伸也

4月になり、新しい学校年度が始まりました。数十年後の歯科医療の担い手となる歯学部生が歯学部に入學してまいりました。未解決の課題に取り組む歯学研究者を目指して大学院生が歯学研究科に入學してまいりました。そして歯学部附属病院には、臨床医としての研鑽を積むべく研修歯科医の皆さんが全国から集ってきました。本年度も、この将来の歯科医療を支えてくれる若い力と経験豊富な専門医の力を融合して、安心・安全の、そして高度な歯科医療を、実践してまいります。

歯科医療における「最後の砦」病院として、専門性の高い医療を提供することは、私たちにとって大切な業務の一つです。そのために、私たちの病院は沢山の専門外来を備えています。一方で、このような専門性を統合して患者様の治療に当たることも大切になります。このような体制を提供することを目的の一つとして、様々なセンターも設立してきました。現在、この歯学部附属病院には、口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センター、近未来歯科医療センター、一般歯科総合治療センターの3つの診療センターがあります。これからも、複数の診療科の力を集約することを目指したセンターの設立を推進し、患者様に満足して頂ける歯科医療の提供に尽力してまいります。

引き続き、歯学部附属病院をよろしく願っています。

内面

● 特集 1.

「SD 講演会」を開催しました！

● 特集 2.

国際歯科医療センター活動報告

「国際シンポジウム in 香港」

● 特集 3.

マイクロスコープを用いた根管治療

お口の相談コーナー

お口のマメ知識

裏面

● 2017年 1~3月の統計情報

● 病院概要



病院長補佐(薬剤部長) 上田 幹子

本院ではSD(Staff Development)講演会を年数回実施し、構成員の資質向上に取り組んでいます。講師にはこれまで本院関係者、大阪大学関係者をはじめ様々の分野の方々に講演を頂いています。昨年度は、平成29年1月5日に本院病院長 村上伸也先生より「大阪大学歯学部附属病院が輝き続けるために」と題して開催いたしました。



本院は歯科として独立した数少ない国立大学病院です。現在、大学病院は多くの課題に直面しています。その様な状況の中でも、本院が大学病院らしく存続するために、柱となる教育、研究、社会貢献(標準化医療から最先端医療まで)のそれぞれに質の向上と国際化に取り組むこと、本年4月には特定機能病院に準じた医療安全体制を整備すること等を講演されました。教職員学生を含めた全員が、共通認識のもとに責任と誇りをもって課題を解決するという思いを新たにいたしました。

最後に病院長は「『歯病があつてよかった!』と思ってもらえる病院であり続けましょう。」「『歯病で診察すること、そして研究することが誇らしい』と思える病院であり続けましょう。」と結ばれました。



病院長 村上 伸也

2017年1月、大阪大学と大学間協定を結んでいる香港大学において“Current and Future Challenges in Dentistry”と題し、大阪大学歯学部附属病院国際歯科医療センター主催の第2回国際シンポジウムを行いました。当日は現地の歯学部教員・大学院生・歯学部学生等多数の参加者があり、成功裡に終了いたしました。

シンポジウムでは、再生医療や高齢化社会で期待される歯科治療、また口唇裂・口蓋裂の患者さんへの新たな歯科矯正治療法など、両大学が保有する最先端の歯科医療について活発な意見の交換が行われました。

特に、村上センター長が行った、世界初の歯周組織再生剤「リグロス®」開発に関する講演終了後は、参加者より多数の質問が飛び交い、大反響となりました。国立台湾大学・台北医学大学・中山医学大学・中国医薬大学の台湾の5大学において実施した昨年シンポジウムに続き、本年のシンポジウムを通して、香港大学との臨床研究、学術交流・学生交流を推



お口の相談
コーナー



写真1



「多数永久歯の先天欠如について」

矯正科 外来医長 社 浩太郎

「歯が生えてこないんです」というご相談がよくあります。歯の欠如は、乳歯よりも永久歯で高い頻度で起こります。なかでも6歯以上の歯が先天的に欠如している場合は、矯正治療に健康保険が適用されます。歯の種類別では、第2小臼歯(前から5番目の永久歯)と側切歯(前から2番目の永久歯)の欠如が多いです。永久歯が欠如している場合、その部分の乳歯(例えば第2乳臼歯)が長期間残存します。しかしながら、乳歯はずっと残る歯ではありませんので、いつかは人工の歯で補ってあげる必要があります。

このように、多くの歯が先天欠如しているお子さんも成長発育に伴って、

歯や歯並び、かみ合わせは変化します。歯を補う治療で、良い歯並びやかみ合わせにしてあげるには、第一にあごや歯の成長発育を考慮した矯正治療と小児歯科の治療による前準備や、状態の悪化を予防してあげるような治療計画を練ってあげる必要があります。

多数永久歯の先天欠如を、お子さんの時期から放っておくと、歯のない箇所に隣の永久歯が移動したり、深くかみこむようなかみ合わせになったりして、歯並びやお顔の見た目に影響したり、食べ物を咬むことが難しくなることが心配されます。

写真1には、大人になってから、最

終的に補綴歯科治療を行うことを前提として矯正歯科治療を行っている例で、上あご左右の第1と第2小臼歯(4番目と5番目の永久歯)と、下あご右側の第2小臼歯、左側の犬歯(3番目の永久歯)と第2小臼歯7本が欠如した症例をご紹介します。歯を補うために適切に空隙を開けるようにしたり、歯の傾きを変えたりしています。

歯が生えてこない症例のなかでも、多くの永久歯が欠如している場合について、治療が必要であることと、その理由についてご案内いたしました。気になることがありましたら、担当医にお気軽にご相談ください。



進し、アジアの歯科医療リーダーとして今後も両者で協力していくことを確認いたしました。今後も、患者様の相互紹介、歯科医師および歯学研究者の相互交流を積極的に行ってまいります。

このような国際連携を推進することで、歯科医療分野の国際化に貢献し、大阪大学歯学部附属病院にいられている患者さんが、海外に行かれても安心して現地で治療が受けられるよう、体制を一層整備してまいります。



特集 3

マイクロスコープを用いた根管治療

保存科 科長 林 美加子
特任研究員 山口 幹代



図1 マイクロスコープ
Carl Zeiss, OPMI pico

と形が非常に複雑であり、視野も確保しにくいいため、肉眼でその感染源を突き止め、取り除くことは非常に困難です。

そこで、保存科では必要に応じて、マイクロスコープ(図1)を用いた根管治療を行っています。

マイクロスコープは、1950年代に初めて医科で使用されるようになり、1990年代に歯科に導入されました。医科では、眼科や脳神経外科といった微小な領域を扱う分野で使用されていますが、歯科においても、特に根管治療において非常に有用です。マイクロスコープを使用することによって、肉眼の3~20倍程度に拡大された明るい視野(図2)が得られ、診断および治療の精度を格段に向上させることができます。

保存科では、マイクロスコープを駆使して、日々精密な根管治療に取り組んでいます。



図2 歯の根の入口のマイクロスコープ像

むし歯が大きく、歯の神経にまで広がった場合には、歯の根の治療(根管治療)が必要になります。当院の外来には、根管治療がうまくいかず、お困りの方がたくさん来院されています。

根管治療がうまくいかないのは、歯の根の内側や先端の外側に細菌感染が残ってしまうことが原因ですが、歯の根は曲がっていたり、枝分かれがあったり

「放射線や放射能の単位について」

放射線科 副科長 村上 秀明

お口の
マメ知識



東日本大震災の際の原子力発電の事故以来、放射線に関して耳にしない日は無いくらいです。この放射線被ばくの単位について、テレビや新聞では「ベクレル(Bq)」や「シーベルト(Sv)」などを用いています。

【ベクレルとは】
放射線を出す能力を放射能といいます。この放射能の単位が「ベクレル」です。ベクレルは放射能を発見し、第3回のノーベル賞を受賞したフランス人(写真1)です。以前の放射能の単位

は「キュリー(Ci)」でしたが、1990年に変更されました。

【レントゲンとは】
エックス線を発見し、第1回のノーベル賞を受賞したのがドイツ人のレントゲン(写真2)で、「レントゲン(R)」は放射線の照射線量の以前の単位でした。

【シーベルトとは】
放射線の実効線量の単位を「シーベルト」といいます。同じ放射線が当たったとしても、その放射線の種類や、放射線の当たる部位によってその影響が異なるため、特別な係数を用いて計算する線量です。シーベルトは放射線被ばくによる生物学的な影響を研究したスウェーデン人です。

さて、人体に有害な事象が起きる最小の実効線量は100 mSv(ミリシーベルト)とされています。この100 mSvを用いて、みなさんは1年間にその100分の1、すなわち1 mSvまで被ばくしてよいことになっています。医療従事者は2分の1、すなわち50 mSvまでとなっています。

当院で行う歯のレントゲン写真での1回あたりの被ばく線量は5μSv(マイクロシーベルト)程度です。これは、人体に有害な事象が起きる最小の実効線量である100 mSvの20,000分の1です。ちなみに、原子力発電の事故で放出されたセシウム300 Bqを経口摂取したとすると、実効線量は5μSvくらいとなります。

写真1
アンリ・ベクレル



写真2
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン



1月～3月患者数等統計

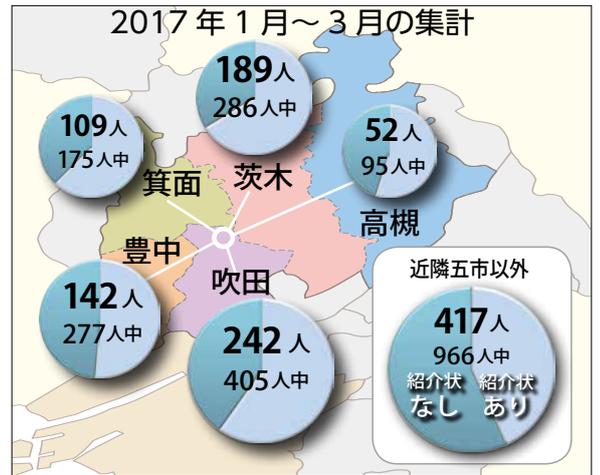
外来患者数・入院患者数



初診患者数と紹介患者数比率

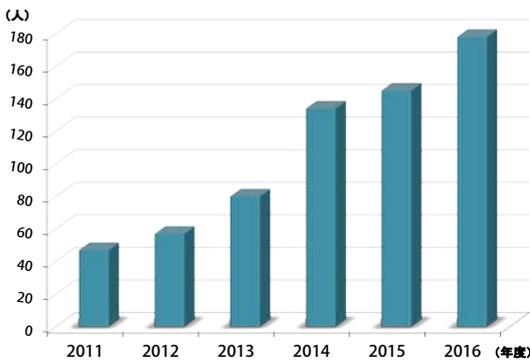


近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



外国籍の患者さんの来院数 (外来) と主な国籍の分布図

【主な国名】…中華人民共和国、インド、インドネシア、タイ、韓国、フィリピン、マレーシア、ロシア、アメリカ合衆国、トルコ、イギリス、スペイン等



◆抽出条件◆ 2011年度から2016年2月29日までに大阪大学歯学部附属病院を受診した外国籍の外来患者さんの人数を集計しました。

病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえお越しください。

入院患者さんへのご面会時間は、12時から19時となっております。

病院へのアクセス

http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html

歯学部附属病院にお車で越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください。

看護師募集中！

—お問合せ—
歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで